

第5回八戸市災害対策本部員会議

本部長指示事項

- まずは、これまでの災害対応、お疲れ様です。
- 地震発生から10日が経過しようとしています。被害状況の把握については、住家や事業所の新たな報告はあるものの、これまでのところ甚大な被害報告はないことから、被害の全容も見えつつあるものと思います。
- 各部においては、今後も被害の把握に漏れのないよう、引き続き、全力で把握に努めてください。
- また、被災者への支援については、被害に遭われた方々の日常を一日でも早く取り戻していただく、という意識を強く持ち、取り得る対応をスピード感をもって実施してください。
- これまで、4月20日の発災と同時に災害警戒本部を設置し、市民の安全確保を第一に、避難指示の発令や避難所の開設・運営、市公式 SNS などによる情報発信、さらに被害状況の把握などに努めてきたところでありますが、昨年12月の青森県東方沖の地震の被害からの復旧途上であることや、北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表され、更なる大規模地震や津波の発生が想定されたことから、災害対策本部に切り替え、この災害に対し、組織一丸となって対応してきたところであります。
- 北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表されている期間中、更な

る大規模地震や津波は発生せず、先日27日に特別な備えの呼びかけは終了しており、また、被害を受けた多くの施設において、復旧に向けて取り組んでいるところであります。

- このようなことから、全庁的な体制の災害対策本部はその役割が果たされたものと考え、八戸市災害対策本部は本日の本部員会議をもって廃止することとします。
- 本部は廃止しますが、引き続き危機管理部において被害状況等の取りまとめを行うこととし、各部においても継続して被害状況や被害額、復旧状況を把握するとともに、被害からの復旧、被災者支援に取り組んでください。
- また、昨年12月や今月20日の地震・津波災害等への対応における課題の検証を行うため、「地震・津波対応に係る検証プロジェクトチーム」を本日発足しました。
- このチームは、市民への避難行動の周知や、避難時の交通混雑、物資の供給・配送、自主避難所への対応、本部と避難所との情報連携などの課題について、客観的かつ総合的に検証し、今後の災害対応の実効性を高めるためのものであります。
- チームの中には、これらの課題ごとに5つのワーキンググループを置き、危機管理部を中心に、部の枠組みを超えた関係課のメンバーにより組織したところであり、3か月以内に検証結果と対応方針を取りまとめることとしていることから、各部においては、この検証作業に協力してください。
- 一方で、このチームによる検証結果を待たずに、当面の対応として、すぐにできる取組を実施します。

- 具体的には、市職員が開設避難所に到着するまでの間、避難所を運営していただくよう、自主防災組織等に改めて周知します。
- また、青森県東方沖の地震と三陸沖の地震の際に、繰り返し避難の実績があった自主避難の場所 13 か所について、職員を派遣することとし、備蓄品の配備も進めます。
- さらには、自動車避難の対応について、先週 20 日の地震の際の人流分析を行うため、必要な契約を早急に行うこととしたほか、関係機関が把握しているデータの提供を依頼するとともに、交通渋滞や混雑が確認された場所における誘導のありかたについて、関係機関との協議を依頼しました。
- 今後起こりうる大規模地震・津波への備えを進めることは大変重要ですので、各部においては、これらの取組についても、あわせて協力をお願いします。
- これまで大変お疲れ様でした。